

○オダイン錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】フルタミド (U) flutamide 【分類】前立腺癌治療薬 [非ステロイド性抗アンドロゲン剤]

【単位】 ○125mg/錠

【常用量】 1回 125mg を 1 日 3 回

【用法】 分3

【透析患者への投与方法】 減量の必要なし (3,12)

【その他の報告】 HD 患者でも PK は変化しない (Anjum S, et al: Br J Clin Pharmacol 1999 PMID: 10073738)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (3,12)

【その他の報告】 腎機能障害により PK は変化しない (Anjum S, et al: Br J Clin Pharmacol 1999 PMID: 10073738)

【特徴】 非ステロイド性の抗アンドロゲン剤。水酸化体が活性体。アンドロゲンとアンドロゲン受容体との複合体形成を阻害することにより抗腫瘍効果を示す。血清中のテストステロン濃度を低下させない。

【主な副作用・毒性】 重篤な肝障害、間質性肺炎、女性化乳房、恶心、嘔吐、食欲不振、下痢、白血球減少、貧血、めまい、ふらつき、腎障害など

【安全性に関する情報】 AKI の症例報告 (Altiparmak MR, et al: Med Oncol 19: 117-9, 2002 PMID: 12180480) 肝機能モニターは定期的 (少なくとも 1か月に 1回) 実施する (1) 尿が琥珀色又は黄緑色を呈することがある (1)

【吸収】 $ka=1.177/\text{hr}$ (1)

【F】 急速にほぼ 100%吸収される (U)

【tmax】 1hr (1) 2hr [水酸化体] (1)

【代謝】 主に CYP1A2 により代謝される (1) 主要代謝物は水酸化体 (1) 少なくとも 6 種の代謝物に変換され、主代謝物は α -水酸化誘導体と水酸化体で活性を有する (U) 代謝物のうち 4-nitro-3-fluoro-methylaniline は黄疸、溶血性貧血、メトヘモグロビン血症の原因になる可能性がある (U)

【排泄】 尿中回収率 37.6% でほとんどはグルクロン酸抱合体で未変化体はわずか (1) 尿中未変化体排泄率 [おそらく回収率] 40% (12) 累積では尿中に 70%回収 [ラット] (1) 主に尿中に回収 (U)

【t1/2】 1.4hr (1) 4~6hr (12) 高齢者や高度腎障害患者で延長 (U) α 相 0.8hr, β 相 7.8hr (11) $ke=0.489/\text{hr}$, 水酸化体の $ke=0.0499/\text{hr}$ (1) ■水酸化体 6hr (U) 14hr (1) α 相 1.7hr, β 相 8.1hr (11)

【蛋白結合率】 94~99% (1)

【Vd】 データなし (12)

【MW】 276.21

【透析性】 蛋白結合率が高く、除去されないとと思われる (5) 資料なし (1) 除去されない (Anjum S, et al: Br J Clin Pharmacol 1999 PMID: 10073738)

【OW 係数】 約 3700 [1-オクタノール/buffer] (1)

【相互作用】 フルファリリンの作用増強 (1)

【更新日】 20250515

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等をご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断複数・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。